

ワークショップ発表内容（1班～6班）

テーマ：地域の実情に応じたこれからの公共施設を考えよう！

<1班>

○今の子どもも未来の子どもも住みたい住み続けたい町 海老名

- ・ 発表のテーマは「今の子どもも未来の子どもも住みたい住み続けたい町 海老名」です。いま海老名で生活している子どもたちも、これから生まれてくる未来の子どもたちも、ずっと暮らしていきたいと思われるような街をつくるのが、我々の責務ではないかとみんなで考えました。
 - ・ 【ポイント1】では、3つの意見がありました。
 - ・ 1つ目の「既存施設の有効活用」としては、既存の施設をもう少し使いやすくすること。具体的には会議室に本棚や無料 Wi-Fi を設置することです。
 - ・ 2つ目の「時間帯の予約なしでも使用可」については、実際に施設に行かないと利用できるかどうか分からないという状況があるので、インターネット上で空き具合や予約ができるといいと思います。
 - ・ 3つ目の「商業施設内の空スペースを公共施設に」ですが、せっかく海老名には大きなビルもあり、空いている部屋もあると聞きましたので、そういう施設をみんなで使える会議室にしてみたいのではないかと思います。
 - ・ 自分は高校生ですが、学校は 19 時くらいに閉まってしまうので、もう少し勉強したいと思っても場所がありません。駅前で勉強できたりすると気分転換にもなるので、誰でも使える会議室があると嬉しいのではないかと思います。
 - ・ 【ポイント2】は、4つあります。
 - ・ 海老名市は、海老名駅中心のエリアは都会的になっていて、子どもたちにとってもロマンسカーミュージアムなど雨の日にも遊べる場所がありますが、一方、市内には自然を満喫できる場所も残っています。具体的には南部地区です。田んぼもあるし、こういうところに子どもがのびのびと遊べるスペースが必要ではないかと思いました。海老名には公園がありますが、町なかの公園は「ボールも駄目なにも駄目これも駄目」と禁止事項が多いので、南部では自由に遊べるスペースを有効に提供できるのではないかと思います。
- それがこの3つ、「子どもが楽しく過ごせる」「のびのび遊べるスペース」「森林公園の新設」です。
- ・ 「子ども主体」ですが、中学生、高校生たちが自分たち主体で施設を運用できる場所があるといいと思いました。市内に高校もあるので、子どものアイデアを活用してできるスペースがあるといいと思います。運営を子どもたちに体験させることも考えていいのではないかと思います。
 - ・ 川崎に夢パークという施設があり、子どもが泥んこで遊べたりします。ああいう施設が南側にできるかもしれないと思いました。
 - ・ 【ポイント3】は、海老名に「あったらイイな！」と思うものにスポットを当てる、ということです。
- 海老名には文化的施設、例えば美術館・博物館・音楽スタジオなどがありません。美術館・博物館はすぐお金がかかりますので、既存の施設のスペースを活用して、大きくなくてもいいから美術館のようなものを設けてもいいのではないかと思います。そうすることで文化的な街を目指せます。最後に音楽スタジオについてですが、家で練習できない人が本格的な音楽スタジオを有料で借りることができたらいいな、と思いました。
- ・ 以上をまとめると、ハード面を考える上で、ソフト面をみんなで考えることでハードがより良くなると思いました。
 - ・ 我々 1 班は、今の子どもと未来の子どもを中心に考え、模造紙にあるこの「えび〜にゃ」の笑顔のように子供たちが幸せになれる施設をつくりたいと思っています。そのためには、どんな公共施設があるかという周知をしっかりと、使い

やすくしていろいろ楽しくやれるようになれば良いと思います。今ある施設をどうすべきかをしっかり考えて子どもたちに伝えていくことが大切だと思いました。

<2 班>

○世代間交流を活発にして好循環を生み出す！

- ・ 世代間交流をポイントにいろいろ考えるといいのではないかと思います。小さい子供がいる家庭から、高齢者だけの家庭まで含めて、コミュニケーションを取ってコミュニティを形成できれば、海老名全体がよくなるのではないかと思います。
- ・ 一番のポイントとなるのが「真の自治」「参画意識」というもので、市からやってもらうだけでなく、市民から意見が出て議論が活発になる環境があったらいいと思います。
- ・ 何度も話の中で出てきたのが、公共施設を統廃合した場合には、移動手段も同時に考えなければならないということです。これは絶対外せないことだと思います。
- ・ コミセンについては班の中で意見が割れました。今のコミセンは世代間交流の役割を担えていないので、いま使われていないから一度なくしてしまって、そうすれば必要なものが出てくるのではないかという意見が出る一方で、現在、コミセンが利用しづらいというのはみんなが思っていて、予約が取りづらいからインターネットでの予約を可能にして、どう使えるかを PR する必要があり、統廃合したり新設したりするよりは今あるものをもっと活かそう、という意見も出ていました。
- ・ 門沢橋コミセンにはまだカフェはありませんが、自動販売機で飲み物を買ってきれいなテラスで飲むことはできます。「カフェがほしい」とアンケートを書いたら思いが通じるかもしれません。
- ・ 海老名は児童館がなく、子どもたちが室内で遊べる児童館のような要素がコミセンにあってもいいと思いました。
- ・ 海老名は鉄道網がしっかりしているアクセスの良い特色ある自治体であり、県道拡幅の話も進んでいます。線路を越えるための陸橋を設置してさらにアクセスをよくすれば、門沢橋コミセンや商業施設も一体で化ける可能性があると思います。ここにタワーマンションを建てる必要はなく、自然と調和したものをつくっていけばいいです。
- ・ 運動公園の前に駐車場があるので、単線だから市がお金を出して小さな駅を設置すればいいと思います。JR はお金がないといっても、市がお金を出して、運動公園の施設に PFI を活用して民間を巻き込んで、利用料でコストをまかなうなど、既存のストックを活かすこともできます。
- ・ 必ずしも海老名だけで完結する必要はありません。横には綾瀬があり、里山公園を海老名と綾瀬で連携して設けることもできます。田園都市としてこの地域を見れば、素晴らしい土地です。文化センターから少し歩けば綾瀬です。お互いのストックを利用しながら、広域連携をしっかりしたらいいのではないかと思います。
- ・ コミセンを高校生に使いやすくしてほしいです。新しくつくることや統廃合をする前に、今ある施設を使いやすくすることが先決だと思います。今、海老名高校は耐震工事のためプレハブで校庭が半分つぶれており、運動部などの活動場所が制限されています。部活動も市の体育館やコミセンを利用したらいいと思います。そういう使い方ができるのをみんな知りません。私も、このワークショップでコミセンの話聞いて、そういう施設があることを知り、使いたいと思いました。私は絵を描くのが好きですが、絵具とかで絵を描ける場所は少ないです。汚してはいけないなど規約が多く、自由度の高い使いやすい場所を提供してもらえると、高校生としては助かるなと思います。
- ・ 私は世代間の公平みたいなことを考えていました。我々の世代は経済成長とともに年を取り、いい思い出をしてくれましたので、将来の人たちにいいものを残してあげたいという思いがいっぱいです。これからは経済が逆方向になると思うので、公共施設は少なければ少ないほどいいというのが私の考えです。ただ、今あるものはうまく使った方が、いきなり

廃止するよりはいいと思っています。私は公助や共助には期待せず、自助でやるのが基本であって、高度成長で予算をどんなことに使おうかというときに、他の市町村がこんなことをやっているということで真似してきたから予算が膨らんできたので、なんとか予算をしぼませないと、世代間の公平が保てないと考えています。今度、市庁舎周辺が市街化区域に指定されるそうですが、それをチャンスと捉えて、海老名小学校と市庁舎を一緒にするとか、他の公共施設を集約化してコンパクトにするのを目指したらいいのではないかと思います。

- ・ 自然の部分について、代々海老名に住んでいますが、この 50 年間で自然がどんどんなくなっています。のどかな田んぼの中にある有馬高校に通学していたが、倉庫をあんなに建ててしまい、相模縦貫道で富士山が見えなくなってしまう、どんどん住みづらい海老名になっています。杉久保あたりの自然とサービスエリアを利用しながら里山公園を造ってほしいというのが願いです。自然を残してほしいと思います。
- ・ 考え方の違いがあっても同じ班で話し合い、全然知らなかったことを知ることができました。

＜3 班＞

○子供達が幸せになれる海老名

- ・ テーマは小学校に絞っています。小学校は、誰しものが記憶にある、長く通う施設であり、記憶に残る施設であり、一番大事なものは海老名市内にまんべんなく分散されて配置されている点です。
- ・ この位置は、小学校 1 年生が歩ける距離に配置されているので、つまり高齢者も歩ける距離に配置されていることを意味します。統廃合ということでなくなるかもしれませんが、子供が減っても小学校は残すべきだと思います。
- ・ 我々は、コミセンはいらない、なくすべきだと思います。ハコものであり、人が雇われ、お金も使われていくので、空き教室を使うという考えです。小学校には体育館も音楽室も家庭科室もあります。子どもが使わない時間をうまく使ってコミセンの代わりにするという考えです。
- ・ コミセンは比較的小学校の近くにあるので、地域のコミュニティを考えても無理はないと思います。人が減っていくなかで、限られた人材をコミセンと小学校を複合化することで兼ねられる部分も出てきます。高齢者が見守り機能を果たしてセキュリティ面も解決できるのではないかと思います。
- ・ 空き教室を使う際に、民間の企業を誘致しながら、福祉事業者や医療関係者などとも連携することも考えられます。
- ・ 海老名で産み、育てることができる、という必要がありますが、海老名市には産科病院が 1 か所しかありません。妊娠した場合には、里帰り出産をするか、他の地域の病院に行かなければならなくなります。海老名には市立病院があったっておかしくないはずですが。
- ・ 小学校を再編の核としたのは、歩ける範囲内に設置された地域のコミュニケーションの核になる施設だからです。地域の絆や連帯をつくることができるだろうということで、小学校はたとえ 1 クラスになっても残し、民間も含めて空き教室を有効活用して収益も上げる、という意見です。
- ・ 大人になっても、小学校 1 年生の頃の思い出は残っています。小学校は残しておかなくてはいけないと思います。本当は医療機関が来てくれるのが一番いいと思います。そこに保育園やデイサービス施設やカフェがあってもいいです。勉強したい部屋をつくることもできます。皆さんが集まれる拠点として、小学校を核にしていこうということです。
- ・ 中学生以降になれば、統廃合しても一向に構いません。自転車もありますし、小学校 5、6 年生からお受験で私立の中学に入る子供もいますので、地域性をあえて考えるほどではないだろうと思います。
- ・ コミセンと違って、小学校には運動場があり体育館もあります。テニスコートもあるので、コミセンも他のスポーツ施設

も削減できるのではないかと思います。

- ・ 私は小学校を残したいと思っています。思い出に残っている場所であり、なくなるのはさみしいです。小学校に子どもがいなくなっても宿泊施設として利用している施設もあるので、ホテルなどに活用してお金を稼げる場所にもなります。空いている場所もコミセンみたいな利用ができると思います。私はコミセンに行ったことがなく、どんなものがあるかもわかりません。コミセンといえば、ダンスの練習や勉強をする場所で、若者は行かないと思います。カフェや海老名の歴史が学べるなど、何かものを置けば、「あそこといえばあれがあるから行こう」となります。
- ・ 学校というのは、昔は寺子屋でした。学校は歴史を作る場所です。是非、学校をメインに統廃合を考えていただきたい。
- ・ 門沢橋で小学校の PTA 会長をしており、そのなかで門沢橋小学校が 50 周年を迎えましたが、近い将来、有馬小・社家小・門沢橋小が統合されるのという話を聞きました。小さいころに父から門沢橋にどういう思いで小学校をつくったか、という話を聞きました。父は 4 年生になると、山の上の有馬小学校まで通学しており、お金がある家は今でいうコミバスに乗れたといいますが、そうではない家は歩いて通っていたそうです。それは不便でかわいそうだということで、私が小学校に入る少し前に門沢橋小学校ができました。子どもの数が減っているので、それがまた 50 年前に戻ってしまうのではないかと感じまして、小学校を中心に考えようと思いました。やはり小学校は海老名市内のどこにでもあり、以前ワークショップでエリア別に検討したときにも小学校を残すというのは公平なのではないかと考えました。是非、行政の方にも考えていただきたいと思います。

<4 班>

〇見えない壁をぶっ壊す！！

- ・ 過激なタイトルをつけていますが、これは手段のようなものです。目的としては、公共施設の見直しで、なぜそれが必要なかを考えました。
- ・ 我々としては、今、地域のコミュニティが崩れているということで、それを再構築することで公共施設を見直すことを考えました。既存の仕組みが集約されたものが今の公共施設ですから、それを壊していく、という意味でタイトルを付けました。行政の縦割構造を解消して民間企業とできるだけ融合しながら持続可能な公共施設を皆で創っていくことを目的としています。
- ・ 【ポイント 1】は、買い物・医療難民の解消です。南部の方は中央に比べると不便な面があります。そこで門沢橋でコミセンを中心に施設を再編すると便利になるのではないかと考えました。どうしても農耕地域なので、面積は広いけど人口は少ないです。スーパーも離れています。門沢橋に集約化すると活性化につながるのではないかと思います。コミセンの利用方法もわかっていない人が多いですが、利用してもらうための方法も考える必要があると思います。
- ・ 【ポイント 2】は、統廃合・機能の見直しです。個人的にはシルバー人材に登録したり、災害ボランティア活動などで施設に関与したりしましたが、若い人の提示した資料は素晴らしいと思い、浦島太郎のような感じがします。私は 80 歳を過ぎて若い人には負けてしまうので、市の人や若い人に活躍してもらいたいと思います。
- ・ 【ポイント 3】は、子どもたちと未来のために、ということで、自然の中で子育て、田畑の活用、世代間の壁をぶっ壊す、です。有馬図書館などはリニューアルして小さい子も使いやすい良い場所になっていました。そういう場所があることを周知すると、皆さんに利用されるのではないかと思います。南部は自然がいっぱいで、いろいろ利用できますと思いますが、学校の周りで景観が悪くなってきている場所も出てきています。子どものためには、「自然の中で子育て」をいつもポイントに挙げて進められるといいかと思います。鉄道が単線でも利用価値はあり、悪いことばかりを考えないで全体を見ながら良いところを伸ばしていく、ということができるといいかなと思います。

- ・ 【ポイント4】は、商業化による地域活性化ということで、スマートインターを誘致したり道の駅を設置したりして活性化が図れればいいと思います。
- ・ 最後に、インターネットをもっと活用していく必要があるという話が出ました。いい施設ができて、その情報を知らないという意味がありません。よくコミセンを利用しますが、調べてもコミセンのホームページが出てこなかったりするので、インターネットを利用する若者が調べたときに、情報がパツと出てくるようにしたほうがいいと思います。回覧板も紙ベースですが、これもネットでやっていくべきなのではないかと思います。
- ・ 今回、施設の統合という話も出て、先ほど門沢橋コミセンの画像も拝見しましたが、高校生としては、地味よりおしゃれなカフェがあったりする施設だと嬉しいし、利用したいです。例えば、海老名図書館にはスタバがあって勉強できます。そういう場所だと、お友達とも行きたいなと思います。せっかく統合するなら、そういう若者が使いたいと思う施設が増えるといいなと思います。

＜5 班＞

○使い易い、住み易いえびな

- ・ 使い易い、住み易いえびなというテーマでまとめました。今後は海老名市のお金がなくなるというのが大前提で、施設の統廃合をどうするかを話し合い、2つのポイントに整理しました。
- ・ 【ポイント1】の施設関係についてですが、皆さん年代が違うので、それぞれ意見も要望も異なっていました。
- ・ 年長者の方からは海老名市として歴史と文化を感じられる施設が少ない、という話が出ました。以前、海老名市には古墳などの歴史的建造物があるという話が出ていたので、そういうのを若い世代につなげられる施設があってもいいかと思います。
- ・ いただいた資料では、南部の小学校の児童数が少なくて驚きましたが、小学校の空き教室を活用して歴史を感じられる施設を入れて、小学生にも学んでもらえたらいいです。空き教室の活用でいくと、自治会などにも利用させてほしい、という意見が出ました。コミセンを統合すると集まれる場所も少なくなるので、空き教室を有効に使わせてほしいと思います。
- ・ 海老名市としてのコマーシャルがあまりにも少ないです。ここ最近、ツイッターやフェイスブックに登録してみました、海老名市の情報が全然上がってきません。もっと活用できると、若い世代にどんどん広められると思います。やはり施設を知らない人が多く、どうやって使ったらいいのかも知られていません。こういう機会がないと知らないままなので、今後もっと広められるといいと思います。
- ・ 民間企業との連携については、海老名市図書館と蔦屋がうまくやっています。このような例がもっと広まるいいと思います。
- ・ 我々一般のサラリーマンとしては、土日使える施設があるといいと思います。例えば、必要な手続きをしようとしても、市役所は基本的に土日は閉まっています。他の施設についても、土日使える環境を整えてもらおうと、人が住みやすくなり、財政収入も落ち着くのではないかと思います。
- ・ 【ポイント2】は、交通関係。当然、統廃合をするのであれば、「足」が必要になります。
- ・ 当然、統廃合するのであれば足が必要です。コミュニティバスは北側に路線が3本ありますが、南側はどうなっているのかわかりません。横浜市などではレンタサイクルを導入しています。有効活用できる手段はほかにもあると思います。
- ・ 通学路には危険な箇所があるので、ガードレールを取り付けてほしいです。
- ・ 今回、ワークショップに参加して営繕課の方から写真付きの東京や埼玉の事例をいただきましたが、非常に参考に

なりました。東柏ケ谷でも小学校に空き教室が出てきています。長寿会や社会福祉協議会の視点でも小学校の空き教室を使わせてもらいたいと思います。

- ・ 海老名市の体育館は空調が入っていません。もしこの時期に大地震が起きて避難したら非常に寒いと思います。
- ・ コミセンの中に自習室があると先ほど初めて知りました。みんなに知ってほしいです。使いたいのに使えないことが課題でもあるので、複合化していく中で考えていけるといいと思います。
- ・ 「みんなが笑顔 住みやすいまち えびな」は、スローガンではなくて現実論です。これをやるためにはどうしたらいいのかという切り口で話を進めるべきだと思います。公共施設は税金で建てているのだから自分の財産です。40 年経過しているところもある。自分の家だったらどうするか、というところに落とし込む時間がほしかったです。市民の負託を受けて運営されているわけですから、事業予算を組んで、徐々に、いろいろな組み合わせを考えながら、人口減少にに応じて実現していったほうがいいと思います

<6 班>

○学校を中心に公共施設の再編を考える

- ・ ポイント 1 は「コミセン機能を小学校に集約」です。学校を中心に公共施設の再編を考えましたが、どういう風に再編するか、から考えたので、どうあるべきかはほとんど話し合っていない。それと同時に、再編の結果、交通網の整備なども起こると思いますが、その辺も話し合いました。
- ・ 先ほど、アンケートを見た際に、世代間の公平が保たれていないことや、地域によって利用できる人とできない人が分散していること、また、若い人、特に学生が使える施設になっていないということだった。それらを踏まえても、公共施設のあり方の一つとして、今ある学校を中心に考えると一番いいのでは、というのがグループワークのコンセプトとなりました。
- ・ もうひとつ、利用する人と利用しない人がいるということでしたが、利用する人が払うのが当然であって、何でもかんでも行政がするのはおかしいと思います。今後も、公共施設を整備する際には、負担の公平も考えるべきです。
- ・ ポイント 2「保育施設の併設」について、小学校は各地域にまんべんなくあって避難所にもなっているので、統廃合というより、どのように有効に使っていくかを考えました。今は共働き世帯が多くなっているので、小学校に保育施設を併設し、空き教室を学童保育や私立保育園として使ってはどうかと考えました。核家族化も進んでおり、世代間交流ができないこともあり、小学校に高齢者の居場所も設けてはどうかという意見も出ました。縦のつながりができる場所となるといいです。
- ・ 個人的には、駐車場の有料化については、公共施設はどういうものかという根本的な点が話されていなかったのではなかったと感じています。市民の健全で文化的でコミュニケーションがとれるようなものを考えていきたいと思います。
- ・ 海老名市には史跡や古墳がたくさんあって興味深くて知りたいことなので、こういうところをうまく利用するといいいのではないかと考えています。施設や歴史を学べる場所があれば、住み続けたい、住んで良かった場所になると思います。
- ・ ポイント 3 目「空いた施設の有効活用」について、学校だと最終下校時刻があって練習する時間が限られてしまいます。家でやるには厳しいです。部活の延長として利用できる施設があるといいです。
- ・ 海老名は学校が多く、様々な地域から中心地点に集まることが多いので、小さい公園ではなく、花火ができる広場やプールなど、大勢が集まれる場所があるといいです。
- ・ そもそもなんの施設があるかわかっていません。学校にアンケートを配って、強制的に回答させる形にして、高校生の意見を募った方がいいのではないかと感じました。

- ・ 収益性を上げないとだめだと思う。小学校を中心に公共施設は再編するということですが、いずれにしても税金はかかります。問題はどの施設に収益性を求めるかです。プールは収益を上げていいと思いますが、市民ギャラリーは収益を求めたら利用する人もいなくなってしまう。お金をかけずに利用できる施設と、お金をとつても使う施設をまず考えたいと思います。
- ・ 小学校はおおむね等間隔に配置されています。有馬小学校は少なくなってきたので、使いましょう。学生が好きなイベントをどんどん開催するのもいいと思います。Wi-Fi を入れてゲームイベントやただけなど、若者が使えるようにした方がいいです。そうでなければ、若者は参加しません。
- ・ 杉久保など改修したコミセンは今後 10 年 20 年使うと思います。これから使う中高生のために真剣に考えていきたいです。

＜ファシリテーター総括＞

- ・ 第 2 回、第 3 回で「用途」と「地域」から公共施設のあり方を議論し、ワークショップで出たさまざまなご意見や課題をまとめて、地域の実情に応じて、これからの公共施設はどうあるべきかを考えていただきました。
- ・ 1 班はタイトルが「今の子どもも未来の子どもも住みたい住み続けたい町」で、特に将来というところを念頭に置いていると理解しましたが、「子どもがのびのび遊べるスペース」や「子どもの意見を取り入れ施設を作る」といった子ども主体のまちづくりや施設のあり方について提案していただきました。さらに、施設の有効活用を進めていかなければならない、ということでした。
- ・ 2 班は「世代間交流を活発にして好循環を生み出す」というタイトルにあるように、「子ども支援センターと高齢者支援センターを同じ施設にする」「有馬小・中学校と本郷コミセンは統合できそう」など、複合化・集約化のアイデアをたくさん出していただきました。さらに J R や他市との連携という視点も示していただきました。
- ・ 3 班は「子どもたちが幸せになれる海老名」ということで、特に小学校が市内に分散配置されている特色を活かして、「子どもたちの思い出になるように」「小学校を中心としたコミュニティづくり」「コミセンは全て小学校に統合していく」といった形で、小学校を中心としたご提案をまとめていただきました。
- ・ 4 班は「見えない壁をぶっ壊す！！」ということで、キャッチーなタイトルをつけていただきましたが、行政の縦割りを解消してうまく民間も活用し、持続可能な公共施設をみんなで創っていこうという提案です。そのために、スーパーや医療をまとめてコミュニティバスを増やしたり、既存施設の利用方法や利用時間を見直すなどのアイデアも出ています。さらに I T 活用の視点も示していただきました。
- ・ 5 班は「使い易い・住み易いえびな」というタイトルで、「施設」と「交通」についてポイントを絞ってまとめていただきました。施設については、学校の空き教室活用や交流の場、災害の視点も含めた体育館の空調整備など、既存の施設をより有効に活用するためのアイデアが出ていました。また、交通については通学路にガードレールを付けるとか、使いたい人が使えるように施設統合に向けた交通手段を整備する、といったアイデアが挙げられていました。
- ・ 6 班は「学校を中心に公共施設の再編を考える」という明確なタイトルをつけていただきました。ポイントを明確にして整理していただきまして、コミセン機能を小学校に集約、保育施設の併設、空いた施設の有効活用、ということで具体的な改善策を示していただきました。
- ・ このように、各班、個性的な提案をまとめていただきました。今後の公共施設のあり方として、P R も含めた「既存施設の有効活用」や、「施設の統廃合」「施設の複合化」「学校を中心に公共施設の再編を考える」などのご提案がありましたが、それだけでなく、統廃合や複合化を実現するには、「施設まで遠くなる人のための交通手段を充実する」「民間企業と連携する」「既存施設の利用方法や利用時間を見直す」、さらに先生に任せるだけではなく地

域や他の部局と連携した学校の管理・運営のあり方という視点も大事だと思いますが、こういったソフト面の改善もあわせて見直しが必要であることをご意見として出していただきました。さらに、新たな利用者を取り込んだり、海老名市を盛り上げるような方策として「SNSなどをうまく使ってPRを充実する」「イベントを企画する」「地域資源を活かした道の駅をつくる」などのアイデアも、IT活用や地域活性化の視点も含めてお示しいただいたと思います。

- ・ また、興味深かったのは、どの班でも「こども・学校を中心に」「世代間交流の場」などのキーワードが出ていたことです。今回のワークショップには、高校生から子育て世代、シニア世代など多様な世代が参加されていますが、みんなが便利で住みやすい、わくわく楽しくなるような、公共施設の市のあり方を念頭に議論をしていただいたと思います。
- ・ 今回のワークショップでは、施設の老朽化によって今後の更新費用が莫大に必要なこと、一方で、生産年齢人口の減少などによって財政状況は厳しくなることなど市より説明がありました。こうした状況において、公共サービスを持続可能なものとしていくには、公共施設の統廃合や複合化が考えられるわけですが、公共施設の統廃合や複合化も市内一律に実行するのではなく、例えば海老名駅周辺などの中心部は民間と連携して必要な公共サービスを確保したり、人口減少や高齢化が進んでいる市南部のエリアは、学校とコミセンや保育園など他の公共施設を複合化して地域拠点化していく、さらにどのようにアクセスを確保していくのかなど、こうした点を含めて、地域によって状況が異なり、それぞれの状況に応じて適切なソフト面を含めた改善が必要であることが見えてきたのかな、と思います。また複合化しても、入居する施設間で利用時間や管理の方法が違っていると利用しにくい、などのご指摘も出ていました。まさにおっしゃる通りで、「見えない壁をぶっ壊す！！」というタイトルもありましたが、これは行政内の組織も含めて横断的に施設の管理運営の在り方を見直し、使いやすくする工夫が必要だと思います。他市の事例では、学校に隣接するスポーツ施設の管理を市民のNPO団体が委託を受けて実施していて、その事業の一環として学校開放の運営や登下校時の子どもの見守りなどもNPOが行っている事例もあります。海老名市にも、親身になって地域や子どものことを考えたり活動してくださる皆さまのような方がいらっしゃいますので、市民と市が協力した施設の運営やサービスのあり方を十分考えられると感じました。
- ・ 今回、ワークショップへの参加を通じて、公共施設に対する理解を深められ、グループワークを重ねるうちに自分なりの考えが深まった方も多いと思います。参加する前と比べて、日常で目にしたり利用したりする海老名市の公共施設の見方が変わったという方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。
- ・ 今回までのグループワークで出た意見・アイデア・発表内容は、冒頭で報告した市民アンケートの集計結果と合わせて、海老名市公共施設再編（適正化）計画の改定作業において、十分検討・反映していただきたいと思います。
- ・ 最終回までありがとうございました。